

# 日刊 勤労千葉

80.9.10  
No. 530

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二二五八・九(公衆)四三三二・七二〇七

# 新小岩・佐倉で職場集会

## 貨物合理化粉碎へ総力決起しよう！

全支部より五〇〇名の組合員が結集してかちとられた「国鉄35万人体制粉碎、55・10ダイヤ改悪阻止、九・五勤労千葉総決起集会」の圧倒的成功をひきつぎ、各支部は職場集会、現場長交渉、ピラはり闘争など創意あふれた闘いを展開している。とりわけ、56・3ジェット燃料輸送要員生みだしのための貨物合理化攻撃が集中する佐倉では、五日青年部集会、八日支部集会を開催した。同じく新小岩支部は、八日支部集会を開催した。現在までの闘いと交渉により「貨物削減について修正検討する」とまで一步後退せざるをえなくなっている当局をさらに追いつめるべく、両支部の仲間は、より一層の闘争体制を強めている。

「五六・三」をみすえた五五・一〇ダイヤ改悪阻止を闘う！佐倉支部！！

佐倉支部の闘いは、当局の貨物輸送効率向上・改善にむけての列車削減と乗務員仕業の見直し、と称した八機関士一五名減と、検修四名減の要員削減攻撃Vを撤回させるものとしてある。

八日開催された支部集会には、六〇名の組合員が参加した。集会は、当局による一方的な要員削減攻撃に対する怒りと、それを撤回させる決意をこめた雰囲気の中で開催された。

参加した組合員は、布施本部組織部長の鮮明な方針提起をうけて、今回の55・10による機関士一五名減の狙いが、56・3燃料輸送要員生みだしのための攻撃であることをはっきりと受けとめ、検修要員削減反対とあわせて56・3の前哨戦として55・10を全体で闘うことを確認した。

五五・一〇の闘いを破壊し、才二マル生の尖兵と化した「本部」派

こうした佐倉支部の闘いに敵対し、破壊することのみを生業とする裏切り分子土屋幹らは、こんにち内部矛盾を深め、当局へのタレコミ路線を再び公然化している。

八五名で「発足」したはずのペテン的「業務再開支部」なるものがいまだに「組合員」が半数にも満たず、土屋幹に言わせれば「自分の意志をはっきりしないフラフラした者」が「本部派」だと組合員を愚弄している。さらに、土屋幹が恥知らずにも、「本部」反動分子の手先となって勤労全国大会で「ジェット燃料延長反対決議」を出したことに対し「あれは土屋が勝手にやったことでは関係ない」と内部からもソップをむかわれている。一方、当局はなんとしても55・10、56・3の闘いを圧殺すべく攻撃をつよめている。これに呼応して第二マル生分子として「検修は勤務がデタラメだ。



「武操型合理化」に率先協力し、今また「貨物安定宣言」と「大胆な妥協」路線に走る「本部」反動分子によって、我々の職場を守りぬくことはできない。55・10を粉碎せよ。

「本部」反動分子と同質の腐りきった性根をもつた人物であろうか。かかるTなる人物に代表される「自分だけ良ければいい、あとは佐倉がどうなっても知らない」という、佐倉の組合員の利益を売り渡す裏切り分子は徹底して糾弾しなければならぬ。

新小岩操縮小反対・国労とともに闘う！ 新小岩支部！！

新小岩支部は、あの「本部」反動分子が率先協力して出来上った貨物合理化のモデル職場・武蔵野ヤードの稼働能力アップによる新小岩ヤード縮小に伴う八機関士一七名、検修二名の要員削減攻撃Vとの闘いである。

八日に開催された支部集会には、五五名の組合員が参加し、新小岩ヤード要員一四名という大量要員削減攻撃と闘う国労分会との共闘体制をさらに強めることが確認された。そして同時に、九月二十日をヤマ場に設定し、武蔵野ヤード開業時に「一地方の問題」として闘いを裏切り、武操型貨物合理化の推進者となった「本部」反動分子への怒りをバネに決起することを確認した。